

## 年頭にあたって



後援会長  
いまむらひろし  
今村 浩  
(仁美)キリアデザイン学部

あけましておめでとうございます。2012年の新春を迎えるにあたり、後援会を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

昨年は、何と申し上げても東日本大震災がもたらした日本全体へのダメージが大きいものの、それ以外にも世界のいろいろな地域での地震、洪水などの天災、ヨーロッパを発端とした世界経済の混乱など、学生たちが巣立っていく社会はここ数年よりさらに厳しいといわざるを得ません。子どもを学校に通わせる立場にある後援会員の皆さまの中にも、卒業後の進路が気かりである方も多いかと思えます。就職活動といいますが、まず最初は、業界あるいは有名企業を目指しての活動になるようです。学生個人々に合う職種や組織、場所などはまさに人それぞれです。一つの目標に突き進むのも大切と言えます、大

切ですが、人生の様々な場面で次から次へと現れる選択肢の数々に、若者たちは悩み、戸惑うこともあるでしょう。その時々「選択」で困難をうまく乗り切るための力こそが、大学4年間で身につけるべき力であると思います。

法政大学には恵まれた教育・研究施設はもろろんのこと、学生スポーツや各種サークル、ボランティア組織など、知識を蓄え「人間力」を鍛えるさまざまな環境が備わっています。また、近年「就業力」や「学力」のアップに取り組んでいますので、自ずとどんな変化や困難にも対応できる力が備わってきているはずですが。後援会は、学生たちがこれからの日本の復興の礎を支えるために、魅力ある、また真に自立した人間として成長するよう、精神的支柱となりをながら、その土台となる大学環境のすべてをさらにより良きものにするために、後方から支援し続けていきます。

ご父母の皆さまには今後も引き続き後援会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年一年が、皆さまにとりまして実り多き年となることを願っております。



10月16日(日)首都圏父母懇談会/小金井キャンパス



11月11日(金)支部長懇談会/スカイホール



11月12日(土)学部長・後援会役員懇談会/外濠校舎

## 総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会を開催



後援会総務  
わたなべしゅういち  
渡邊 秀雄  
(拓馬)国際文化学部

11月30日(水)に総長・学内理事との懇談会を開催しました。後援会が直接大学と、今後の大学のあり方や学生の状況などについて意見交換をするために毎年行っています。

大学からは増田壽男総長をはじめ常務理事、理事など8人が、後援会は今村会長ほか副会長、総務運営委員と事務局長12人が出席しました。

あらかじめ提出した「質問事項」に対して総長・担当理事から説明をしていただき、意見交換を行いました。

### 1. 法政学への招待について

今年度より始めました自校教育科目「法政学への招待」は、自分が学ぶ大学の事を知っておいてほしい、歴史と現状を知ることによって、本学で学ぶ意義を考える機会を提供します。

授業は市ヶ谷で全15回の講義を後期の9月から1月まで行い、総長以下各回のテーマにふさわしい講師(現役の教員、法政出身の他大学教員、卒業生など)を迎えてい

## 写真で見る後援会(2011年4月~11月)



5月14日(土)幹事会/スカイホール



5月21日(土)宮城県支部新入生父母の集い/ウェスティンホテル仙台



5月21日(土)本部新役員キャンパス見学会/市ヶ谷キャンパス



6月4日(土)支部長会議/外濠校舎



6月4日(土)総会/薩埵ホール



6月25日(土)役員研修会/日本出版クラブ会館



7月16日(土)青森県支部総会・父母懇談会/ホテル青森



9月10日(土)臨時総会/外濠校舎



10月15日(土)郡山支部キャンパス見学会/市ヶ谷キャンパス

各回のテーマは、法政大学と日本近現代史、校歌、他大学からみた母校、地域社会とのつながり、アジアとの密接な関係など。法政出身の鈴木直道支長市長の講義では270人もの受講があり大変盛り上がりたようです。

### 2. 大学経営の将来構想について

受験者数は9万人を確保しており、大学職員が全国の高校などへの働きかけを積極的に行っている成果が出ています。全国から学生が集まり交流することは大学として重要な事であると認識しています。

法政の特徴の一つ「ピアサポートセンター」は学生が学生を教え、今までに約1万人の学生が参加し自主的に運営しています。他大学からも見学に来るほど評価を得ています。

法政のブランド力は、学生の力、教員の研究力(質)によると考えています。

### 3. 新しい卒業生組織について

2013年度卒業生から校友会費を大学が徴収する事になっています。これを機会に全国の卒業生組織を刷新し1県1支部体制を目指すことを、現在の卒業生組織にもお願いしています。卒業生が会員として継

続いてつながることを考えています。他に東日本大震災の来年度以降の学生支援、就職状況や法政のスポーツの状況などについても意見交換ができた有意義な懇談会となりました。ありがとうございました。





## 体育会応援12【ボート部】（親からのメッセージ）



熊本県副支部長  
たけした ひろこ  
竹下 浩子  
(和花子/文学部)

9月16日(金)～18日(日)まで行われたボートの全日本選手権で法政大学ボート部は女子エイトで銀メダルを獲得しました。本日は昨年に引き続き連覇を狙っていただけに2位でゴールした瞬間から和花子は大泣きでした。優勝と準優勝の違いがこんなにあるんだ、と見ているこちらにも涙が出てきました。

法政大学ボート部との出会いは高三の天竜での選抜大会の時、シャトルバスを待つ列で山口監督と前後だった縁から始まります。あの時交わした短い会話からは今の和花子の姿を想像もできませんでした。中学時代バスケット部だった和花子は高校進学に際しバスケットを続けるかどうかとても悩みました。身体能力、特に握力だけは人並みはずれたものがあり、私の母校でもある熊本学園大学付属高校の恩師に相談してみましたら「一度ボート部の内藤監督に会ってみては！」と勧めていただきました。その内藤監督は、「和花子と握手した

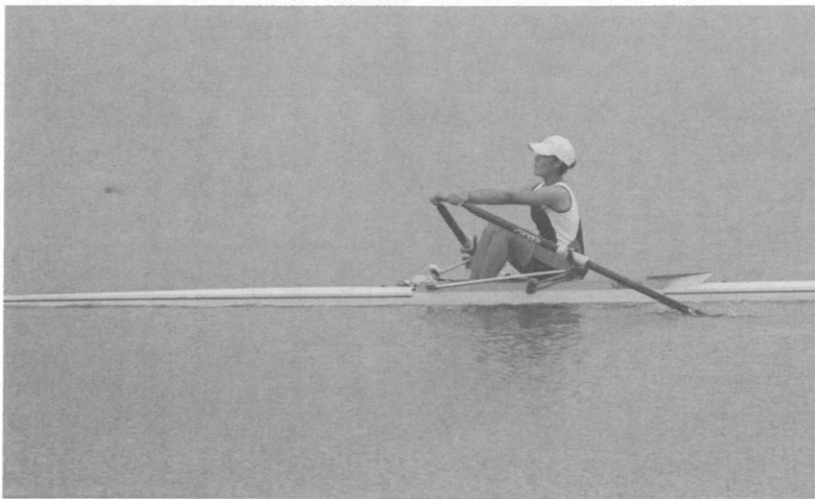
瞬間に決めた！」と後日言ってくださいました。大きな手と握力と内藤監督の勘で和花子のボート生活が始まりました。江津湖という素晴らしい自然環境と先輩方や仲間たちに恵まれ高二のインターハイでは女子クオードで全国3位になることができました。それが自信となり大学でもボートを続ける決心をしたようです。法政大学ボート部は埼玉県戸田市戸田公園に合宿所があります。東京オリンピックの時にできた2.5kmの真つすぐなボートコースの両脇に東京のほとんどの大学の合宿所があるのです。金八先生のオープニングで有名な荒川沿いのとても素晴らしい環境の中、ボート部全員で合宿所生活を送っています。朝4時半に起きての朝練、そして大学で授業を受け、また帰ってきての練習と本当にハードな毎日です。この合宿所での生活が仲間たちとの強い絆と強い精神力を培うのだな！と親も感心しています。そしてもう一つ感動するのはマネージャーさんたちの活躍です。選手たちはある意味「法政大でボートを頑張るんだ！」



和花子さん(左)と同期の林瑞穂さん

と決心して入学してきますのですが、マネージャーさんたちは大学に入ってからからの勧誘で入ってくださった方たちです。毎日の食事の世話、選手達の心身の管理、そして試合の応援と本当に献身的に頑張ってくださいます。また山口監督はたくさんの方々の選手たちの父親がわりとして一人ひとりに目と心を配り支えてくださっています。健康面でも大変な中、頑張ってもらっている姿を見

て、選手たちも「監督にメダルをプレゼントしたい！」と一生懸命練習に励んでいることに心から感謝して、これからの毎日を楽しみ真剣に頑張ってくださいます。来年度の活躍を心から願っています。



江津湖で初めてボートを漕いだときの一枚

## 常任参与・参与との懇談会報告



後援会総務  
ちば だいいち  
千葉 大一  
(優一/文学部)

11月17日(木)、常任参与・参与との懇談会が、橋本サクエ法人統括本部長をはじめ大学より13人に出席いただき開催されました。この懇談会には後援会から運営委員が参加のうえ年2回開催され、今回が本年度2回目の懇談会となりました。

懇談会では、(1)東日本大震災関連、(2)首都圏における新入生父母の集い開催、(3)来年度の「学生支援費」をメイン

テーマに、報告、意見交換などが行われました。

東日本大震災関連では、主に学生の被災状況、被災学生による学費免除申請状況などにつき大学から報告がありました。学費免除申請状況は、後援会による被災学生支援と密接に関係していることから丁寧な説明がありました。また、非常時対策として進められている必要な措置につき、その進捗状況が大学より報告されました。大学・後援会共に、来年度も被災学生に対する支援継続の方向性を確認しました。

首都圏における新入生父母の集いは、震

災の影響で本年度は実現できませんでしたが、来年度は実施する方向であるとの報告が大学からありました。主催は大学ですが、後援会としても開催に協力していく方向性を確認しました。

「学生支援費」は、後援会予算の中で最も大きな割合を占めていますが、限りある予算の中での遣り繰りとなります。このため、後援会としての基本方針を大学に説明し相互理解を深めました。

今後も大学と定期的な懇談会を行い、法政大学のさらなる発展のための支援、学生生活の環境向上のために必要な意見交換を行ってまいります。

## 箱根駅伝予選会報告



2010年度鳥取・島根県支部長  
たかひろ  
戒谷 孝博  
(啓/生命科学部)

10月15日(土)朝、立川は雨でした。7月の鳥取・島根県支部総会にご出張いただいた後援会の齊藤顧問のお誘いで、箱根駅伝予選会を初めて見させていただきました。会場へ行くと法政大学のオレンジの旗の元に、後援会の方がたくさん集まっています。これから始まる予選会に多くの応援団

がいることを心強く思いました。40校もの大学と各校の応援団、後援会、OB、駅伝ファンなど、人の多さにも驚かされました。私は駅伝がスタートして400人の選手の中から法政大学の選手を見つけ「法政がんばれ」と応援するのが精いっぱい状態でした。結果は10位で、あと一歩のところ(9位と29秒差)で本選に出場することはできませんでしたが、選手には「ありがとう、お疲れさま」という気持ちでいっぱいになりました。鳥取・島根県支部では毎年10月に行われる出雲駅伝に法政大学が出場することを楽しみにしています。今後、

出雲、全日本、箱根の3大駅伝に出場して活躍してくれることを期待して報告とさせていただきます。



### 後援会ホームページのご案内

URL: <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

### 「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きます。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp